

<b>協議概要</b>	
報告 (1) 亀岡市地域公共交通会議条例の一部改正について (2) 亀岡市地域公共交通計画策定業務委託先について 協議 亀岡市地域公共交通計画の策定について	
<b>報告 (1) 亀岡市地域公共交通会議条例の一部改正について</b>	
委員 (全員)	特になし。
<b>報告 (2) 亀岡市地域公共交通計画策定業務委託先について</b>	
委員 (全員)	特になし。
<b>協議 亀岡市地域公共交通計画の策定について</b>	
会長	資料3「計画の構成」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」等で示されている計画の要件に適合するものか。
委員 (近畿運輸局京都運輸支局)	適合しており、問題ない。網形成計画は、本計画策定後を見据え「前計画」とする方がより適切である。
会長	「上位計画・関連計画」の整理では、ただ概要を示すだけでなく、本計画との具体的な関連性が市民に伝わるような書きぶりにするのが望ましい。 資料4に示されている現行計画の達成状況には、コロナ禍による影響が大きく含まれている。本計画ではコロナ禍のような不測の事態にも一定程度対応可能な指標設定等が望まれる。
副会長	市民アンケートは無作為抽出された市民に配布されるという理解でよいか。各地域の意見を捉えられるようにしていただきたい。 また問6で挙げられているデマンド交通については、病院からの帰りは、診察にかかる時間が分からないため予約がしづらいといった問題も想定されるのではないか。
会長	アンケート調査票に、デマンド交通のデメリットを明示する必要がある。
事務局	市民アンケートの配布対象とする市民の抽出にあたっては、地区毎に最低配布枚数を設定する等、各地区から意見を得られるよう工夫する予定である。
委員 (利用者の代表)	ふるさとバスに導入されたフリー乗降制度は、便利なものである一方、フリー乗降区間で手を挙げていたのにバスが通過してしまった例があるようである。
事務局	フリー乗降区間においても、法令上駐車禁止となっている等の危険な場所などでは停車できない。安全な場所を選んで利用いただく必要がある。
委員 (利用者の代表)	当該の事例は、それまでも利用していた場所でバスを待っていたとのことである。無事にバスが利用できるか不安を抱きながら利用されているのではないか。
委員 (まちづくり推進部長)	危険な場所で手を挙げて利用者がいた場合、少し先の安全な場所で停車するという対応は可能か。
委員 (京阪京都交通)	安全な場所まで進んで停車することは可能。
会長	フリー乗降区間の中でも、ここなら安全な乗降が可能であるという認識を、バス事業者と利用者双方で共有しておくことが望ましい。
委員 (地域住民の代表)	フリー乗降制度の開始による利用者増への効果は評価しているのか。 網形成計画の達成状況の中で、「要綱上の交通空白地等を拡大」とあるが、誤解を招く表現ではないか。
事務局	公共交通の不便地と認定し、支援の対象とする範囲を広げたという趣旨である。
会長	「支援エリアの拡大」など分かりやすい表現に修正することが望ましい。

委員 (地域住民の代表)	市民アンケートの配布について、年齢についてもまんべんなく抽出されると考えてよいか。
会長	抽出数を踏まえると問題ないと考えられる。ただし回収結果に対して年齢層別の回答率などを確認することは必要である。
委員 (利用者の代表)	郊外部には、ガレリアかめおか等の目的地へのアクセスが、遠回りになったり乗継ぎが必要だったりと不便な地域があり、地域内で送迎を依頼している場合もある。乗継ぎが必要な場合は乗継割引などの利便性向上策を検討いただきたい。
委員 (利用者の代表)	身体障がい者の立場から申し上げると、フリー乗降区間で手を挙げるということが誰でもできるわけではない。 また市民アンケート調査についても、回答に家族の助けが必要な方もいる。このような点に配慮いただけるとありがたい。
委員 (近畿運輸局京都運輸支局)	網形成計画の達成状況の評価結果はパーセント表記で示されているが、評価の考え方を示してはどうか。また達成状況が十分でない施策についても、その理由を付記するとよい。 また市民アンケート問6について、デマンド交通の導入にあたって回答する人が判断し易いよう、既存の路線バスは廃止されるのか等の前提条件の整理を明確にする必要がある。
会長	亀岡市として導入が可能なデマンド交通の条件を明確にし、どのような運行となるのか、どのようなメリットやデメリットがあるのかを示さなければ、市民も導入の是非の判断ができない。アンケート調査の利用意向の回答と実際の利用とは、乖離する場合が多い点に留意が必要であり、アンケート結果だけで導入を進めるのはどうかと思う。 市民アンケート問6・問7については、事務局において再度検討することが望ましい。また回答者属性の性別は、自由記入ではなく選択肢を設けた方がよい。
委員 (利用者の代表)	東西別院地区では、自治会によるデマンド交通である地域主体型交通が自宅を発着する移動を担っている。自宅から最寄りのバス停までの移動が困難な住民もいるので、この間の交通手段の確保へのニーズが高いように感じる。デマンド交通の導入は着眼点が少し違うと思う。地域主体型交通とデマンド交通は競合させるのではなく自治会への公的支援を増やすなど、既に行われている地域主体型交通の充実が望ましいのではないかと。 スクールバスへの混乗の拡大も、可能であれば検討いただきたい。
委員 (まちづくり推進部長)	デマンド交通の導入については、市議会からも要望があり今回のアンケートでどれだけ需要があるのか把握するため調査しようと考えた。市としては自宅とバス停との間の交通については、地域に担っていただくことを基本に考えているため、市からの支援も充実していきたいと考えている。 スクールバスへの混乗拡大については、今後検討する。
会長	網形成計画の策定以降、各地で地域交通に関する様々な取組が試みられている。地域の力も付いてきていると思うので、こうした取組を計画に反映できるとよい。デマンド交通のアンケートはこれだけ大きく扱うのかも含めて事務局において再度検討していただきたい。

以上